

AA19990003 J1

99.1.8.  
毎日(9)

# 文部省、実態把握へ

## 学級崩壊

### 小学校教師から訴え深刻

小学校で授業が成立しない状態が続く「学級崩壊」について、文部省は8日、実態の把握を始めることを決めた。都道府県教委などを通じ事例を集めて分析

し、対応策を検討する。同省はこれまで学級崩壊を「特殊なケース」と慎重な姿勢を取ってきたが、学校現場からの深刻な訴えが増え、積極的に取り組む必要があると判断した。

学級崩壊は数年前から、いじめや校内暴力と違う

「クラスの荒れ」の問題として教育関係者の間で指摘され始めた。授業時間に複数の子供が担任教師の注意をきかずに勝手に教室内を歩き回ったり、大声で話し続け、子供の大半が教師の言う事を聞かなくなると授業が成立しない状況を指す。小学校高学年が主だが、低学年でも目立つようになり、指導力が不足気味の若手教師だけでなくベテラン教師が担任する学級でも起

きている。兵庫県教組西宮支部が同県西宮市内の小学校教師約1100人を対象にした昨年3月の調査では、約15%が学級崩壊を経験していると回答し、広がりそうかがわっている。小学校は学級担任制で、学級内で問題が起きても担任教師が1人で抱え込みがちで、他の教師や校長らが実態を把握しにくく、崩壊も表に出にくかった。

【岡崎 康次】